

MaOIプロジェクト

令和7年度 進捗状況、令和8年度 取組方針

令和8年2月10日

静岡県経済産業部

MaOIプロジェクトの歩み

R7~

MaOIプロジェクト
第2次戦略計画

R6

駿河湾・海洋DX先端拠点化計画採択
BLUE ECONOMY EXPO開催
BTCA加盟



R5

ブルーエコノミー
駿河湾国際ラウンドテーブル



R2~

第1次戦略計画

MaOI-PARC開所
BISHOP運用開始
MaOI研究推進
コーディネート活動



R1

MaOI機構設立
MaOIフォーラム設立
つなぐ会創設



H30

マリンバイオ産業振興ビジョン

R7年度スケジュール

6月17日	第1回MaOIプロジェクト戦略推進委員会
9月18日	第2次戦略計画 公表
R8年2月10日	第2回MaOIプロジェクト戦略推進委員会

MaOIプロジェクト第2次戦略計画(R7-10)の概要

目指す姿

海洋産業の振興と海洋環境の保全の
世界的拠点の形成

重点項目

- ◎BLUE ECONOMY EXPO等を
活かした国内外のネットワーク強化
- ◎スタートアップと地域企業の共創等による
海洋産業の更なる振興
- ◎本県の抱える課題への対応強化
(水産資源、資源循環 等)
- ◎持続可能な社会の実現への取組推進
(ブルーカーボン、養殖技術 等)

社会
背景

SDGsに関する取組の活発化
Blue Economyへの期待の高まり
食料安全保障への懸念 ほか

I オープンイノベーションプラットフォームの構築

・ 中核的機能の運営



・ 世界展開



・ 海洋研究拠点の機能強化



海洋実証フィールド

・ 連携体制の構築

大学・研究機関

次世代産業関連プロジェクト

II オープンデータ・オープンサイエンスの推進

・ BISHOP等の利活用促進



・ マリンインフォマティクス研究・活用の推進

III 研究開発領域の重点化

・ 重点分野の設定と展開

水産

食品

ブルー
カーボン

海洋観測
情報

・ 多様な主体と連携した研究開発の促進

IV 産学官金連携やスタートアップとの共創による 産業応用の推進

- ・ 海洋スタートアップや地域企業との共創
- ・ 産業応用の加速化

V 人材育成・地域づくり

・ 人材育成 地域づくり



大学等との連携協定締結

成果の発信

清水港エリアを中心とした拠点形成の動向

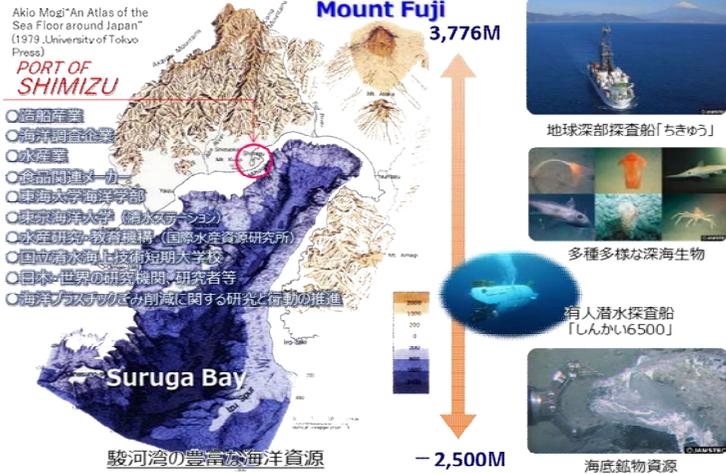
清水港長期構想(令和元年8月)

目指す姿

世界の英知が集まり、
新たな**ビジネスが生まれる**みなとまち

目標

海洋産業の活性化と新たなビジネスの創出



静岡市の取組との連携

Fuji-Suruga BX PARC 構想



貝島地区の「海洋研究・開発拠点化」

■清水港港湾計画(令和3年改訂)

- ・海洋研究イノベーションゾーンに位置付け
- ・「ちきゅう」「みらい」等の研究船の係留岸壁を計画



「みらい2」の就航(令和8年度)に向けて岸壁・土地を整備中

■「海洋研究・開発拠点」の具体化

令和7年9月、「清水みなとまちづくり公民連携協議会」が地区全体の**将来構想の具体案(ガイドプラン中間案)**を公表



R7年度 進捗状況

<戦略Ⅰ>

オープンイノベーションプラットフォームの構築

実績と評価

R7年度 取組実績

指標:MaOIフォーラム参画会員数 **216会員**(目標:273会員(~R10年度))

→フォーラム会員数は前年+23会員で、順調に推移

第2回ブルーエコノミーEXPOを開催(R7.7.25-29(うち4日間))

ブルーテッククラスターアライアンス(BTCA)等を通じた世界発信の増加

駿河湾・海洋DXプロジェクト本格始動による連携強化

静岡・海洋実証フィールドプラットフォーム構築による実証フィールド利便性向上

取組方針

◇ ブルーエコノミーEXPOやBTCA等を通じた国内外の産学官金連携プラットフォームを構築する

- 海外の海洋産業クラスターと連携して、国内外の海洋スタートアップや研究機関とのネットワーク拡大、共同研究等の推進に取り組む
- 海洋研究拠点の機能強化に向けて「清水港貝島地区」の利活用方法を検討する
- AOIやファルマ、光子など産業分野の枠を越えて他のプロジェクトとの連携を強化する
- 海洋実証フィールドの活用により、先端技術や知見を有する研究者や企業の参画を促し、地域企業とのマッチングを推進する

<戦略 I> オープンイノベーションプラットフォームの構築

MaOIフォーラムの運営

- ・先端技術や知見の地域への取込と、多様な主体による交流を広げる場として、セミナーや交流会を開催
- ・連携・協力に関する基本協定に基づき、地域の金融機関と連携した課題解決やマッチング支援を実施

◇MaOIフォーラムセミナー

- ✓ 第24回 (R7.7.28)
海の次世代モビリティの更なる社会実装に向けた国土交通省の取組
国土交通省海洋政策課 課長補佐 永井 哲 氏
- ✓ 特別企画 (R7.8.19) MaOIセミナーin大阪・関西万博
- ✓ 第25回 (R7.11.18)
海洋プラスチックセミナー
海洋研究開発機構 海洋プラスチック動態研究グループグループリーダー 中嶋 亮太 氏
環境省海洋プラスチック汚染対策室長 中山 直樹 氏
- ✓ 第27回 (R8.2.19)
魚肉たんぱく研究の最前線と最新の魚のすり身について
早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 矢澤 一良 氏
株式会社鈴廣蒲鉾本店魚肉たんぱく研究所所長 植木 暢彦 氏

◇MaOIフォーラム交流会

- ✓ 第1回 (R8.3.4) 大日工業株式会社、NACOL株式会社視察会 (仮)

- ◇成果発表会 (R7.12.8) ※第26回MaOIセミナーと同時開催
研究成果及び助成金等による事業化成果の概要を紹介

◇金融機関との協定

- 県内金融機関6行と基本協定を締結
(R8.1月末時点)
沼津信用金庫、清水銀行、浜松いわた信用金庫、静岡信用金庫、しずおか焼津信用金庫、三島信用金庫 (締結順)



<戦略 I> オープンイノベーションプラットフォームの構築

BLUE ECONOMY EXPO@Suruga Bay R7年7月25日(金)から29日(火)

- ・国内外から海洋関連の有識者・企業・アカデミア等が参加する国際会議を「TECH BEAT Shizuoka 2025」と連携して同時開催。本県の海のポテンシャルを国内外に発信
- ・出展規模を約**1.5倍に拡大**。出展企業のうち、少なくとも27社で79件以上の商談あり



海の未来会議



7月25日(金)～26日(土)

グランシップ中ホール大地 ※テックビート静岡同時開催

参加者数 594名

- ✓ 基調講演
 - ・ブルーカーボンの提唱者で、R7年度日本国際賞 (Japan Prize)を受賞したアブドラ国王科学技術大学 教授カルロス・M・ドゥアルテ氏
- ✓ 国内外から海洋関連の有識者、企業・団体代表者等 35人が登壇 (米国・欧州・アジア等)
- ✓ 県内学生による取組発表 (沼津工業高等専門学校、県立焼津水産高等学校、つなぐ・みらいラボ)

海のEXPO等



参加者数
計**2,709名**
※WEB視聴含む

7月28日(月)～29日(火)

清水マリンビル、マリンターミナル

参加者数 2115名

- ✓ 海のEXPO(展示会)
 - ・国内外のスタートアップ、研究機関、団体などが出展 (**R6:46→R7:81団体に拡大**)
 - ・水中ドローン、海洋観測技術、水中通信、水中作業機械、水産業スマート化、陸上養殖、ブルーカーボン ほか
- ✓ ローカルエリアネットワーク会議
 - ・海洋関連施策に積極的に取り組む自治体による事例発表 (北海道函館市、福島県、山口県、静岡市、静岡県)
- ✓ OceanBiz2025 in SHIZUOKA
 - ・清水マリンターミナル及び近隣埠頭等で開催。実機によるデモンストレーションを実施

<戦略 I> オープンイノベーションプラットフォームの構築

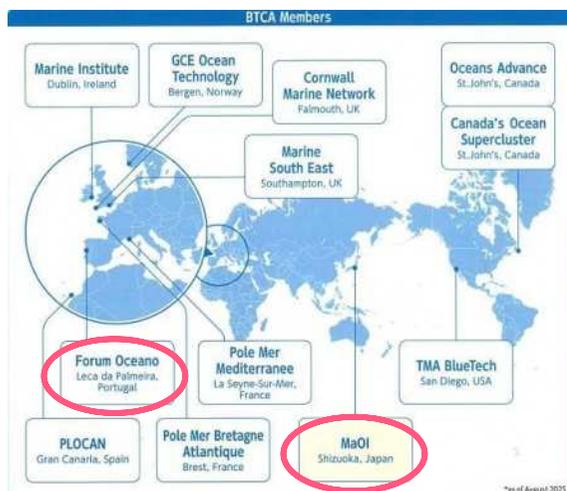
BTCA(ブルーテッククラスターアライアンス)ネットワークを活用した国際情報発信



- ✓ 持続可能な海洋経済(ブルーエコノミー)の実現を目的に、科学的知識に基づく海洋関連産業の投資及び成長を促進
- ✓ ブルーエコノミーに関する国際会議を毎年開催
- ✓ 設立:2017(平成29)年、組織概要:海洋産業クラスター12機関が加盟(R6年度にMaOI機構は11番目に、日本からはじめて加盟)

- BTCA加盟を契機に、国連海洋会議への出席やMaOI機構とポルトガルクラスター「Fórum Oceano」との覚書締結など、海外機関等へのPRの機会が増加
- 海外クラスター間でのグローバルピッチイベントをBTCAで初開催し、県内企業を含む2社が登壇。結果を踏まえたフィードバックにより、海外企業のマッチングを推進

Fórum Oceano(ポルトガル) と覚書締結 (R7.11.25)



▼締結式

国際コンベンション等への参加

- R7.6.9-13 第3回国連海洋会議 (フランス)
- R7.9.24 エコノミーフォーラム (ポルトガル大使館)
- R7.9.18-19 大阪万博ポルトガル館
- R7.12.9 BTCAピッチイベント (オンライン)



▼国連海洋会議

サイドイベントでプレゼンテーションを実施。さらに、BTCAメンバーによるNice Ocean Business Forumに登壇し、静岡の海洋産業クラスターへの取り組みを紹介。

第1回 BTCAピッチイベント~海洋観測とそのデュアルユース技術~

オンライン形式による世界同時配信。各クラスター推薦企業が2社程度プレゼンテーションを実施(欧州・米州・アジアの19社)。企業による事例紹介や民間と防衛の両分野での応用可能性を秘めた事業連携の機会を提供。

⇒**県内企業含む2社が自社PRを実施**。国内約10社の企業が参加をするなど、海外企業の情報入手をする貴重な機会となった【課題】時差や言語による制約、企業へのイベント周知

<戦略 I>オープンイノベーションプラットフォームの構築

駿河湾海洋DXプロジェクトとの連携

【考え方】

静岡市が駿河湾・清水港を中心として始める取組について、県はこれを補完する形で連携し、成果をフィードバックして広域的に展開する等により、MaOIプロジェクトのさらなる発展を図る

MaOIプロジェクト
(県内全水域)



駿河湾海洋DXプロジェクト

内閣府 地方大学・地域産業創生交付金事業

駿河湾・海洋DX先端拠点化計画 (県・静岡市共同計画R6. 7月国採択)

【目指す姿】 海洋DXに関する先端的な研究機関・企業の集積によるブルーエコノミー (海洋関連産業) の活性化を目指す

①実施計画推進

キックオフセレモニーを開催。プロジェクト参画機関のほか、内閣府地方創生推進事務局、国会議員、県議会・市議会議員、市内企業等関係者を招待し、約150人が出席。展示会出展や市ホームページ等を通じた情報発信の展開。

②大学改革

マリンインフォマティクス研究機構を設置、開所式、記念式典を開催。海洋DXコース開設 (R9) に向けた教育カリキュラム構築を検討。高校生向けの海洋DX入門セミナーと、社会人向けの海洋DXセミナーを開催。大学等連携推進法人設置に向けた本格検討を開始。

③マリンインフォマティクス

20テーマのマリンインフォマティクス最先端研究を開始。大型計算機「MI駿河」を稼働し利用開始。R6年度に引き続き駿河湾MIシステムの開発を実施。

④海洋DX研究開発・事業化推進

駿河湾・海洋DX研究開発事業化コンソーシアムの3分科会 (スマート水産分科会、ブルーカーボン分科会、海洋関連機器分科会) で4テーマの研究開発を開始し、11月からブルーカーボン分科会で新規研究テーマを追加。MaOIフォーラム等の関係企業と駿河湾海洋DXプロジェクト関係者が情報共有できる連携協議会の設置。

関連大学・企業

静岡理科大学

静岡大学

東海大学

NTT(株)

鈴与(株)

など

MaOIプロジェクトによる取組

- ✓ BLUE ECONOMY EXPO@ Suruga BayやMaOIセミナー等での共同による情報発信
- ✓ 国連海洋会議サイドイベントやTechno-Ocean2025等、各種展示会における合同出展やプレゼンテーションの実施
- ✓ 県事業と市事業を活用した、シーズ創出研究や補助事業関係者による成果展開



▼Techno-Ocean2025(兵庫県、合同:静岡市)

<戦略 I> オープンイノベーションプラットフォームの構築

海洋実証フィールドの整備

- ・「静岡・海洋実証フィールドプラットフォーム」（清水区港湾エリア）を静岡市、静岡商工会議所、清水港管理局との協働により構築し、パンフレットやワンストップ窓口を整備
- ・水中ドローン協会と連携し、OceanBiz2025 in SHIZUOKA（再掲）にて、**清水港で実機によるデモンストレーションや講演をし、地理的利点をPR**
- ・加えて、首都圏や県外イベントで積極的にアピールし、県内外からの問合せと参入が着実に増加

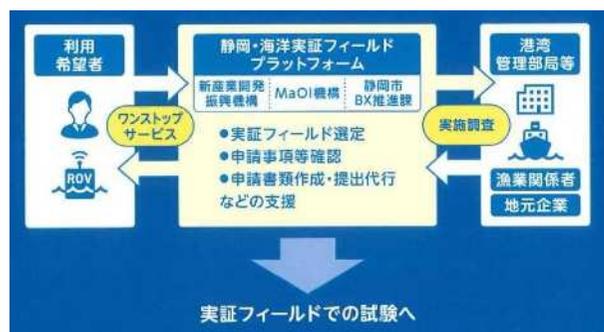
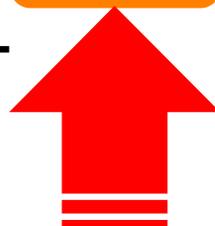


相談件数 **18件** 前年+4件 +29%

うち実施 **10件** 前年+3件 +43%

*R8.1月末時点

増加



▼静岡・海洋実証フィールドプラットフォームページ
(新産業開発振興機構HP)

▼パンフレット

支援事例

- ・ROVメーカー、地元事業者の連携による港湾点検事業の実証実験
- ・大手通信会社の海中超音波通信実証実験支援
- ・洗浄機能搭載ROVの機能検証実施支援
- ・防汚塗料の性能評価



イベントの誘致

NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）へ積極的な働きかけを実施。その結果、「NEDO懸賞金活用型プログラム」プレイベントをR7.11.11清水港エリアで開催が実現。

<戦略Ⅱ>

オープンデータ・オープンサイエンスの推進

実績と評価

R7年度 取組実績

指標:MaOI海洋生物資源ライブラリー利用件数 **5件**(目標:累計28件)

→ライブラリー利用件数は目標値を下回るものの、前年度に比べ1件増加
ライブラリーの利用促進に資する共同研究を大学や企業とともに実施

取組方針

- ◇ 多角的な海洋情報を駆使して様々な課題解決に結びつけるインフォマティクス研究を推進する
- ◇ 適切な知財管理の下でデータを公開し、国内外の研究者や企業が参画できる情報プラットフォームを構築する

○静岡市等と連携して静岡理工科大学と静岡大学との共同研究機構を設置するなど、マリンインフォマティクスの研究・活用を推進する

○ユーザーのニーズを的確に把握し、他機関の公開情報との関係などデータ活用の利便性向上を図る

<戦略Ⅱ>オープンデータ・オープンサイエンスの推進

BISHOP(Blue Innovation of Shizuoka Open Data Platform)

- ・Ma0I機構が中心となり、県公設試などが蓄積したデータをBISHOPで一括管理、公開
- ・登録データをより広範なユーザが利用可能なスマホやタブレット向けアプリを展開
- ・計算サーバーは、Ma0I機構研究所の生物学的データ解析のほか、県内の研究所や大学生へのインフォマティクスの解析指導等の人材育成にも活用

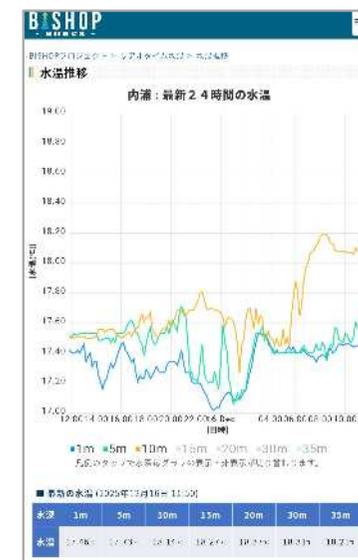


BISHOPサーバー



研究員による研究・事業化支援

駿河湾リアルタイム水温アプリ



静岡県水産・海洋技術研究所が収集している県内4箇所の自動転送型観測ブイからの海水温データをスマホやタブレットで表示するアプリ。
各地点水温の深度比較や時系列変化なども見ることができる。

【活用できる場面】

- ・漁業者の出漁判断
- ・遊漁における場所選び



<戦略Ⅱ>オープンデータ・オープンサイエンスの推進

海洋微生物ライブラリー

- ・海洋由来の微生物(乳酸菌や酵母)を活用した製品開発等を促進するため、海洋微生物ライブラリーを運営
- ・生物種名等の付加情報や、採集済株による公開株の追加により、ユーザー利便性を向上

✓ R7年度利用実績 5件（共同研究3件、分譲2件）

内容
うずら飼育飼料等への浜名湖由来乳酸菌および微細藻類等の利用に関する研究
米含有食品の乳酸菌発酵による冷感覚制御の可能性の検討
海洋微生物ライブラリーの乳酸菌株を活用した食品素材の研究開発
商業利用目的による分譲：飼料
商業利用目的による分譲：サワーエール



✓ 生物種名情報の充実化

項目	R5	R6	R7
種同定株 (公開株)	538 (784)	4191 (4191)	6148 (4191)

✓ 商品化事例



豚肉不使用ラーメンスープ
(ハラル対応)



ハバネロソース



シラスラーメン



発泡酒

＜戦略Ⅲ＞

研究開発領域の重点化

R7年度 取組実績

指標:プロジェクトにおける共同研究等件数 **13件**【目標:累計48件】(R7-R10)

→ ブルーエコノミーEXPO等を通じたMaOI機構の認知度向上に伴い、
第1次戦略に続き、順調に進捗

- ◇ 大学や研究機関等と連携して、水産資源の保全と回復など、本県の抱える課題解決や海洋分野の持続可能性に資する研究を推進する
《重点分野》水産、食品、ブルーカーボン、海洋観測・情報
- ◇ 短期と中長期など、分野等に応じて効果発現までの期間を意識した研究開発を推進する

取組方針

- 大学や研究機関との共同研究等により、産業応用につながるシーズ創出を図る
- 県の課題である浜名湖のアサリ、駿河湾のサクラエビ、シラス、伊豆東海岸のキンメダイ等の水産資源回復、タカアシガニやドウマンガニ等の個性ある魚種など静岡の海の特徴を活かした研究等を促進し、観光なども含めた関連分野への波及を図る
- AI、IoTの導入等により、スマート水産の促進や、漁業・養殖業へ若者が参入する環境づくり等を促進する
- 持続可能な海洋経済の実現に向け、水中ドローン等を活用した海洋観測技術の開発や資源量・生態調査による水産資源保護に取り組む。また大型藻類などブルーカーボンの活用や、食料安定供給に資する養殖技術の開発等を促進する

実績と評価

<戦略Ⅲ> 研究開発領域の重点化

R7取組実績:プロジェクトにおける共同研究等件数 13件

分類	実施者・協力者	内容	分野
1	シーズ創出研究 東海大学、沖電気工業(株)	生物サンプル採取水中位置の正確な座標検出手法に関する実海域実験による検証	工学・情報
2	MaOI共同研究 早稲田大学	ゲノム情報をもとにした駿河湾生物資源の網羅的解析に係る研究	バイオ
3	MaOI共同研究 海遊館、MaOI機構	海遊館におけるタカアシガニの飼育・繁殖に関する研究	水産
4	MaOI共同研究 新江ノ島水族館、MaOI機構	カタクチイワシ飼育の技術開発研究	水産
5	MaOI共同研究 県農林技術研究所、(有)石井育種場、MaOI機構	チップバーンに抵抗性を有するキャベツ品種（チップバーン抵抗性キャベツ品種）の効率的選抜技術の開発	農業
6	MaOI共同研究 焼津水産化学工業(株)、MaOI機構、県農林技術研究所	MaOIが保有する海洋微生物ライブラリーの乳酸菌株を活用した食品素材の研究開発	食品
7	MaOI共同研究 県農林技術研究所、MaOI機構	水産廃棄物を利用した発酵肥料の有用性評価	環境
8	MaOI共同研究 (株)イノカ、MaOI機構	褐藻類の室内培養実験系の構築	バイオ
9	MaOI共同研究 北海道大学、(株)BLUABLE、MaOI機構	ブルーカーボン大規模創出を実現する海藻着生システムの研究開発	ブルーカーボン
10	MaOI共同研究 広島大学、富士通(株)、(株)BLUABLE、東京海洋大学、北海道大学、MaOI機構	海藻の深海固定による大規模ブルーカーボン創出と生態系への影響	ブルーカーボン
11	MaOI事業化促進助成 Proximar (株)、旭化成(株)	水質浄化材を活用した陸上養殖におけるサーモン品質改良およびDXによる管理技術の実用化	水産
12	海洋技術開発促進事業 山梨罐詰(株)、創価大学	水産加工会社の余剰汚泥を高効率メタン発酵する微生物前処理技術の開発	環境
13	海洋技術開発促進事業 (株)イージステクノロジーズ、浜名漁業協同組合、沼津工業高等専門学校、県水産・海洋技術研究所（浜名湖分場）	赤潮・汚染異常発泡等のドローンを活用した次世代型AI監視プラットフォームシステム「S.W.E.」（仮名）の事業化に向けた基本開発	工学・情報

<戦略Ⅲ> 研究開発領域の重点化

シーズ創出研究

- ・本県独自の技術シーズを創出するための公募型研究委託を継続して実施
- ・完了したテーマは、**得られた知見を成果発表会等で発信**し、企業等と連携した研究開発・事業化を目指す
- ・R7年度に新たに1件を採択

採択	テーマ	実施機関
R6	静岡県の水産物・水産加工食の網羅的機能評価と有効機能の探求システムの開発	東京科学大学、県水産・海洋技術研究所、県工業技術研究所など
		静岡県の水産物・水産加工食品について免疫、メタボローム、行動学を中心とした多角的な機能解析により、健康機能を見出し、生体の微細な異常への効果を評価し、その結果をもとに、世界初の体系的なデータベースを作製する。静岡県の水産物・水産加工食品の付加価値を高めるとともに、それを基に、健康活用アプリを作成し、DX を利用しての広報により、消費者拡大、静岡県民の健康の増進を目指す。
R6	光ToFイメージセンサを用いた次世代水中ドローンの要素技術の開発	静岡大学、静岡理工科大学、早稲田大学
		光飛行時間 (ToF) イメージセンサの技術を応用し、無線による遠隔操作によって多数の水中ドローンを用いて同期的に稼働する、いわば“次世代水中ドローン海洋観測システム”の実現に向けた課題解決（衝突回避や自己位置推定等）のための要素技術を開発するとともに、その原理検証を行う。
R7	生物サンプル採取水中位置の正確な座標検出手法に関する実海域実験による検証	東海大学、沖電気工業株式会社
		駿河湾での位置検出インフラの整備を念頭に、従来よりも簡易で長寿命なロボット座標検出システム (LBL(音響) 測位装置) を開発するため、位置検出対象となるROV実験システムとLBL測位実験システムを構築し、実海域実験を通じて課題を抽出し、IoT技術を活用しながら水中座標検出手法の技術開発を行う。



<戦略Ⅲ> 研究開発領域の重点化

シーズ創出研究（採択テーマ一覧）

年度	テーマ	実施機関	完了
R1	R1 マダイ種苗生産における仔魚の疾病（腹部膨満症）関連細菌の同定	早稲田大学ほか	✓
	R3 キンメダイの飼育技術の構築	東京海洋大学	✓
	R3 静岡県産魚類由来成分による失明疾患の制御に関する研究	慶応義塾大学ほか	✓
	R3 深海環境において生分解性を示すプラスチックの構造探索	東京工業大学ほか	✓
	R3 駿河湾由来のカロテノイド生産微生物の探索とサプリメント開発への応用	静岡県立大学ほか	✓
R2	R4 動画撮影とAI認識による駿河湾サクラエビ漁業支援システム開発	東海大学、静岡市海洋産業クラスター協議会ほか	✓
	R4 海洋細菌の持つ生理活性を利活用する研究	高知大学、国立感染症研究所	✓
R3	R5 サクラエビの初期生活史の解明および受精卵の凍結保存技術の開発	静岡大学、県水産・海洋技術研究所	✓
	R5 海洋環境ワイヤレスモニタリングのための微生物燃料電池の開発	東京工業大学、県工業技術研究所	✓
R4	R6 低酸素応答制御機能を持つ静岡県産魚類由来成分の探索と疾患制御に関する研究	慶応義塾大学、静岡大学ほか	✓
	R6 R7年度成果発表会：基調講演テーマ 内浦湾の環境モニタリングによるマアジのへい死メカニズムの解析	慶応義塾大学、(株)MizLinxほか MaOI機構研究所が協力機関として参画	✓
R5	R7 完全閉鎖環境を用いた浜名湖の底質改善メカニズム解析	福岡大学、株式会社イノカ MaOI機構研究所が協力機関として参画	

<戦略Ⅲ> 研究開発領域の重点化

MaOI共同研究

- ・MaOI機構が主体となり、大学や研究機関、企業等と共同研究を実施
- ・令和7年度はこれまでの研究成果を基に、学術発表を積極的に実施(論文投稿2件、学会発表6件)

【共同研究】

- ✓ ゲノム情報をもとにした駿河湾生物資源の網羅的解析に係る研究【早稲田大学】
- ✓ 海遊館におけるタカアシガニの飼育・繁殖に関する研究【海遊館】
- ✓ カタクチイワシ飼育の技術開発研究【新江ノ島水族館】
- ✓ チップバーンに抵抗性を有するキャベツ品種（チップバーン抵抗性キャベツ品種）の効率的選抜技術の開発【県農業技術研究所、(有)石井育種場】
- ✓ MaOIが保有する海洋微生物ライブラリーの乳酸菌株を活用した食品素材の研究開発【焼津水産化学工業(株)】
- ✓ 水産廃棄物を利用した発酵肥料の有用性評価【県農業技術研究所】
- ✓ 褐藻類の室内培養実験系の構築【(株)イノカ】
- ✓ ブルーカーボン大規模創出を実現する海藻着生システムの研究開発【北海道大学、(株)BLUABLE】
- ✓ 吸収・除去系カーボンクレジット創出促進事業（東京都）
海藻の深海固定による大規模ブルーカーボン創出と生態系への影響【代表機関：広島大学】

【論文投稿・学会発表】

内容	論文	学会
ゲノム情報をもとにした駿河湾生物資源の網羅的解析		○
静岡県産水生生物の全ゲノム解読	○	○
有用物質生産に特化した光駆動型セルファクトリーコレクションの構築		○
音響を活用した浜名湖の水産生物の生態調査技術に関する研究		○
サガラメの代謝物分析および遺伝子発現解析		○
ライブラリー菌株のゲノム解析		○
ニジマス腸内細菌の解析	○	



©Shizuoka Prefectural Research Institute of Fishery



<戦略Ⅳ>

産学官金連携やスタートアップとの共創による産業応用の推進

R7年度 取組実績

指標:プロジェクト事業化件数 2件【目標:累計24件】(R7~10)

海洋スタートアップ創出・誘致数 3件【目標:累計18件】(R7~10)

→事業化件数は、目標推移を下回ったものの、来年度以降、成果創出を見込む案件あり

海洋スタートアップ創出・誘致数は、順調に推移

これまでの成果について情報発信をしつつ、引き続き、コーディネーターによる伴走支援を実施

実績と評価

◇ 産業応用や社会実装を加速化するため、静岡の海を実証フィールドとして、スタートアップや地域企業等との共創に取り組む

取組方針

- スタートアップの技術力等を活用して、地域企業の海洋分野への進出や業態転換を促進する
- 県、市町が実施する創業支援や企業誘致施策と連携し、海洋スタートアップ等の誘致・創出・育成まで継続的な支援に取り組む
- 海洋関連産業の集積に向けた地域優位性を高めるため、静岡の海における実証フィールドのエリアを拡大
- 駿河湾・海洋DX研究開発・事業化推進コンソーシアムのほか、市町や県内大学、県内企業等と連携し、オープンイノベーションによる産業応用の加速化を図る
- ウェルネス、AOI、CHaOIなど他のプロジェクトと連携し、未利用食材の活用など、陸と海を合わせた資源循環等に資する事業を展開する

<戦略Ⅳ> 産学官金連携やスタートアップとの共創による産業応用の推進

補助事業における事業化成果の状況

補助事業名	採択年度	事業者（代表機関）	テーマ
事業化促進	R1	富士山サーモン(株)	浸透圧調節等を利用した安全で美味しいニジマスの養殖生産技術「味上げ」の開発とブランド化
	R1	(株)岩清	鯖発酵調味料の製品化による特徴ある地域ブランド新製品開発
	R1	(株)GOLDBLUE	駿河湾から生まれた高保湿化粧水の開発
海洋技術	R3	(株)秋山機械	安全装置付食品加工バンドソーの開発
	R5	磐田化学工業(株)	海洋微生物を利用した新規なメタン発酵による環境貢献型廃棄物処理システムの開発
MaOI-FS	R4	(株)南食品	お茶風味かつおのたたきの開発
	R4	Rカンパニー(株)	日本本州における海ぶどうの養殖事業
	R5	小倉屋(株)	乾燥技術を応用した「焼かない漬魚」の開発
	R6	(有)山精水産	唯一無二の味 桜えびチップスの開発
	R6	かど万米店	MaOI微生物ライブラリの乳酸菌を活用した自然薯食品の商品開発
	R6	(株)ウミゴー	釣り場チェックインシステム

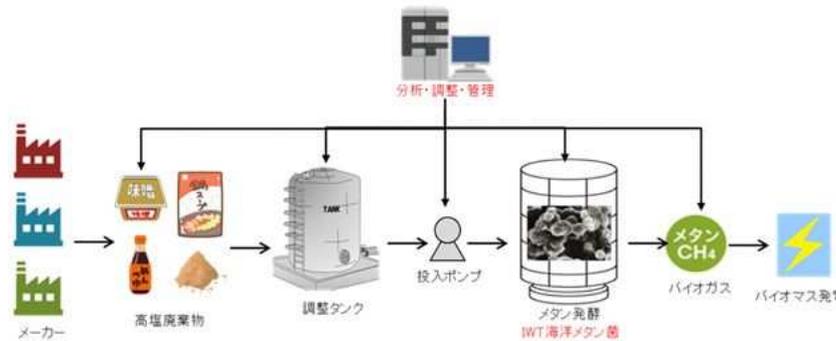
R7事業化成果 2件

水産



▼「富士山サーモン」
富士山サーモン(株)

環境



▼「メタン発酵による環境貢献型廃棄物処理システム」フロー図
磐田化学工業(株)

食品



▼「乳酸菌入り自然薯」
かど万米店

<戦略Ⅳ>産学官金連携やスタートアップとの共創による産業応用の推進

マリンオープンイノベーション事業化促進助成【補助率1/2、上限額1,500万円/年、1~3年間】

- ・海洋生物資源を活用した**新製品開発**や**革新的養殖技術開発等**の取組への助成を継続
- ・補助期間終了後も、事業化に向けてMaOIコーディネーターによるフォローアップを実施
- ・R7年度は1件新規採択

採択年度

テーマ

R5

ドウマンガニ養殖事業

- ・静岡県の特産品であるドウマンの養殖・販売を行う事業の開発を開始。
- ・工業の自動化技術、AI技術を用いて養殖時の生産者課題を解決することで、低コスト化を図る。
- ・販売業者の品質課題や下処理等の課題を解決して、高付加価値な新しい観光資源の創出を目指す。
- ・R7年度は、生産規模の拡大や開発したユニット等の改良を実施。

(実施事業者)

(株)エフ・シー・シー、西本Wismettacホールディングス(株)



▼開発したカニ養殖設備

R7

水質浄化材を活用した陸上養殖におけるサーモン品質改良およびDXによる管理技術の実用化

- ・アトランティックサーモン陸上養殖において、魚の臭いの原因物質を選択的に吸着する新素材の実証実験を行う。
- ・データ収集とDX連携により、品質の見える化と養殖環境の最適制御を目指す。
- ・R7年度は、吸着剤の臭気・味覚への影響について科学的な比較を実施

(実施事業者)

Proximar(株)、旭化成(株)



▼サーモンの陸上養殖

<戦略Ⅳ> 産学官金連携やスタートアップとの共創による産業応用の推進

海洋技術開発促進助成 【補助率2/3、上限額1,000万円/年、2年以内】

- ・マリンバイオの産業応用の基盤となる工学系・情報系の海洋技術開発への助成
- ・補助期間終了後もMaOIコーディネーターによるフォローアップを実施
- ・R7年度は2件新規採択

<p>令和6年度採択</p> 	<p>テーマ</p>	<p>人工知能を使用した冷凍マグロの全自動品質評価装置の開発</p>
	<p>テーマ</p>	<p>日本初となる紅藻アマノリの陸上養殖の事業化 (IoTセンサー類導入による効率的な養殖システムの開発)</p> <p>実施事業者 (株) イシダテック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非破壊かつ安全に、高い精度と実運用に沿った処理能力で、冷凍マグロの全自動品質評価装置を開発することで、現状の尾切選別に伴う諸課題の解決を目指す。開発にあたり、富士通、イシダテック、東海大学、県水技研の知見を結集。 ・コアとなる装置部分は開発完了。精度も確認済み。令和7年2月に実地での運用試験を見込む。 ・事業化に向け、導入に前向きな見込み顧客が複数確認されている。
<p>令和7年度採択</p> 	<p>テーマ</p>	<p>水産加工会社の余剰汚泥を高効率メタン発酵する微生物前処理技術の開発</p> <p>実施事業者 山梨罐詰 (株)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタン発酵は食品残渣からボイラー等の燃料となるメタンガスを発生する有用な技術であり、かつ、省エネルギー・低コストが可能な微生物前処理技術と、高効率化を実現するネットワーク解析を応用することで、水産加工会社の汚泥からエネルギー回収する小型メタン発酵システムの構築を目指す。
	<p>テーマ</p>	<p>赤潮・汚染異常発泡等のドローンを活用した次世代型AI可視プラットフォームシステム「S.W.E.」(SEA-Watch-Eyes platform system)(仮名)の事業化に向けた基本開発</p> <p>実施事業者 (株) イージステクノロジーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤潮発生時の早期識別にかかる現運用管理コストの大幅な削減」と「迅速かつ高頻度で実施すること」を実現させるための手法確立を目的とする。 ・耐水、耐水密等の耐久環境性能の量産化に対応した開発や専用クラウドシステム等を行う。

<戦略Ⅳ>産学官金連携やスタートアップとの共創による産業応用の推進

MaOI-FS(フィージビリティ・スタディ)【補助率2/3、上限額200万円、1年間】

- ・県内企業が事業化の取組に踏み出す際の、事業化可能性調査を支援
- ・令和7年度は4件を採択

【MaOI-FS 令和7年度採択テーマ】

- ✓ 寒天抽出残渣物のアップサイクル技術開発 【(株)鈴与総合研究所】
- ✓ 浜名湖養鰻場跡地を利用したアサリの多栄養段階養殖の実証実験 【マルト口(株)】
- ✓ 内浦初のブランド養殖魚開発の研究 【(有)丸高水産】
- ✓ 環境負荷軽減及び無人機採水を目的とした新機構採水ボトルの開発【Aerial Base】

MaOI機構コーディネーターによる企業訪問・マッチング促進・事業化支援

- ・企業間、企業・大学間等のマッチング等による課題解決や新事業への挑戦を支援
 - ・連携会議などを通じて次世代産業関連PJとのネットワークをより一層強化。
- 分野横断的な次世代産業関連PJとの共創を加速

【事例紹介】

マッチング

■魚の未利用部位を解決したい陸上養殖企業からの相談

未利用部位の有効活用を食品加工会社に提案。さらに、大学との共同研究につなげた

産官学連携

■公園に生息する外来植物に悩む町役場からの相談

炭化事業を実施する企業を紹介し、産業廃棄物ではなく、不要物を資源へ転換する『有価物製造』として処理する活路を見出し、方針を検討中

次世代産業関連PJ連携

■フォトンバレーPJから紹介を受けた電子機器企業からの相談

水産関連産業の視点からブラッシュアップし、新たな販路開拓を提案

R 7年度企業訪問件数※R8.1月末時点	570件
うち新規件数	162件



▼桜えびチップス(2025年ふじのくに新商品セレクション金賞を受賞)((有)山精水産)



▼アプリケーション「UMIGO」(第12回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(農林水産省)を受賞)((株)ウミゴー)

<戦略Ⅳ> 産学官金連携やスタートアップとの共創による産業応用の推進

海洋スタートアップ創出・誘致・育成に向けた取組み

- ・展示会やイベントを主催することで、実際のスタートアップのニーズをキャッチし、実証フィールドを中心に地元企業と相乗効果を創出する企業の誘致につなげる
- ・資金調達支援やコーディネーターによる相談受付、企業紹介、マッチング支援など、バックアップを強化

展示会の開催

(再掲) BLUE ECONOMY EXPO@Suruga Bay
※TECH BEAT Shizuoka同時開催 (静岡市)

- ✓ 12社のスタートアップ企業が出展
- ✓ 出展企業による発表も実施



ピッチイベント

SHIZUOKA STARTUP DAY2025
(Tokyo Innovation Base (東京都))

- ✓ R7.12.22開催ピッチイベントに静岡県次世代産業関連プロジェクトが集結
- ✓ 参加者520人に対して、実証フィールドを中心に本プロジェクトをアピール



資金調達支援 (R7年度～)

静岡県ファンドサポート事業

静岡県ファンドサポート事業スタートアップ向け説明会
～静岡のキーマンと、未来を共に考える会～

本事業への申請を検討されているスタートアップやベンチャーキャピタル向けに説明会を開催します。本事業の説明だけでなく、静岡県次世代産業関連プロジェクトの担当者や静岡県内事業者も登壇するため、連携・協業のきっかけ作りにもなります。皆様のご参加をお待ちしています！

R7取組実績
海洋スタートアップ
創出・誘致数 3件

(累計) 8件
※R 8.1月末時点

	業種 (上段) 主要事業 (下段)
1	SUICTE (株) : イメージセンサー技術 (半導体/その他電子部品・製品) イメージセンサー技術を活用したカスタムビジネス等の事業を展開 (浜松市中央区)
2	(株) 浜松バイオチェスト : バイオテクノロジー 微細藻類の培養装置の開発・製造・販売等 (浜松市中央区)
3	パイフォトニクス(株) : LED照明 (半導体/その他電子部品・製品) 高指向性LED照明装置の製造販売、光パターン形成LED照明装置の製造販売 (浜松市中央区)

<戦略V>

人材育成・地域づくり

実績と評価

R7年度 取組実績

- ・「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」会員(一般会員・応援会員・パートナー)数は336会員(R8.1月末現在)となり、県内企業、市民への認知が向上
- ・展示会等の大型イベントにおける県内小中高生の成果発表機会を創出

- ◇ マリンインフォマティクスをはじめ、課題解決のための多様な専門性を持つ人材の育成を進める
- ◇ 海の豊かな恵みを活かした魅力ある地域づくりを、県民・事業者・団体など様々な関係者と連携して推進する

取組方針

- 海洋スタートアップの集積や研究機能の強化、関係機関との人的交流の活発化などを通じて、多様な専門人材が集い、活躍する環境づくりを推進する
- 高度デジタル人材など多様な専門家の育成に向け、静岡理工科大学に設置する海洋DXコースをはじめ、静岡大学や東海大学における専門教育やリカレント教育を一体的に捉え、人材育成の好循環を生み出すサイクルを構築する
- 海洋資源等を活用し、小中学生等に対する海への理解促進を図るとともに、市町や事業者、団体のほか、漁協等が取り組む「海業」等と連携した特色あるまちづくりを進める

<戦略V>人材育成・地域づくり

「静岡県美しく豊かな海保全基金」

目的:海洋環境の保全や水産資源の回復に資する取組の強化
創設:2022年3月
総額:2億円(県拠出1.5億円、寄附0.5億円)
(寄附実績 R4.4~R8.1 32,653,217円)



県内外の企業等から御寄附を受け、静岡の海の「美しさ」「豊かさ」を未来に引き継いでいくための、様々な活動に活用

御 寄 附



事業内容



ごみ拾い活動費の助成



アカウミガメの産卵環境の保護



▼総合学習の様子



水産資源回復に向けた調査・研究



サガラメ種苗移植

静岡市立蒲原中学校 2年部の生徒のみなさんから 寄附をいただきました

地域の課題発見、地域貢献、地域活性化を目的に起業する総合学習において、2年部の生徒が海岸清掃を行って集めた貝殻でアクセサリーを制作し販売しました。その収益を、生徒のみなさんの話し合いの結果、活動内容と合致する海保全基金に寄附をいただきました。

<戦略V>人材育成・地域づくり

「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」

- ・海に関する実践活動を行う団体等と連携し、様々な活動を展開(336会員R8.1月末時点)
- ・海岸清掃活動に加え、地引網やワークショップ等の体験提供や、フォトコンテスト開催により、静岡の海の魅力を発信



▼しずおかの海体験教室
(地引網&海岸清掃)



▼静岡の海
インスタグラムフォトコンテストの開催



▼ごみ拾いSNS「ピリカ」静岡県版見える化ページの運営



▼親子参加型のワークショップ
「うみごme(みー)@しずおかの海」の開催
(協力団体：issue+design、静岡県くらし・環境部環境局 廃棄物リサイクル課、海のみらい静岡友の会、(株)ホワイトウィングスマネジメント)



▼SNSによる情報発信



<戦略V>人材育成・地域づくり

海洋資源等を活かした地域づくり・地域間の連携

- ・多様な漁村を有し首都圏等からの交流人口が見込まれる本県では、近年、海業の取組が活発化
- ・補助金による事業者支援やマッチングサイトの活用等により、海業の振興に協調

静岡県の海業の推進

【海業の定義】

漁村の人々が、海や漁村に関する地域資源の価値や魅力を活用して所得機会の増大等を図る取組

取組イメージ

漁港に以下のような施設を設置・運営することで、**所得UP・販路拡大!**



直売所



漁業体験

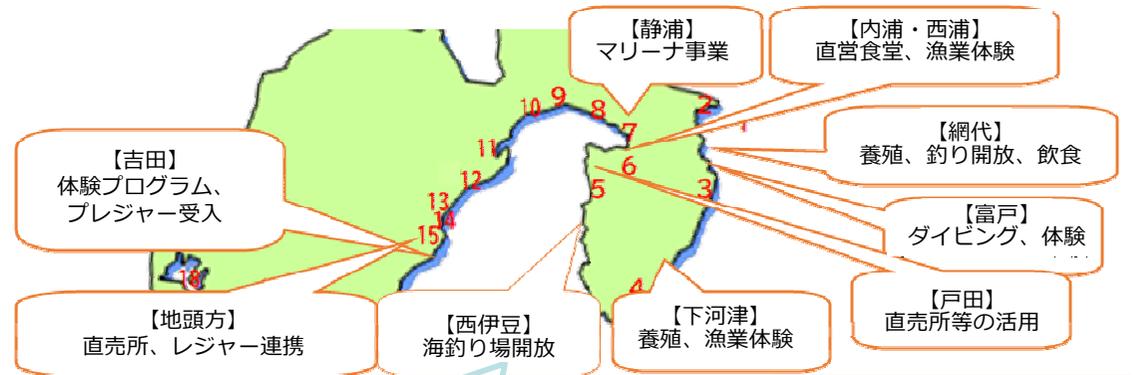


水産食堂



宿泊施設

海業に取り組む地区



番号は、漁協本部の位置を示す

- ✓ 専門家等で組織した「海業推進本部」による全面バックアップ



- ✓ 漁協を中心とした協業体が行う海業の取組支援
⇒海業スタートアップ事業

- ✓ 水産業者等による所得を増加するための取組支援
⇒イノベーション創出事業

MaOI-FS事業者支援 釣り場予約アプリ「UMIGO」(再掲)



<戦略V>人材育成・地域づくり

成果の発信

- ・2025大阪・関西万博に2日間出展し、両日とも約2800人が来場。駿河湾の「多様な魅力」や「魅力を守るために活動する人たち」を国内外に発信
- ・BLUE ECONOMY EXPOや2025大阪・関西万博など、地元の学生たちが発表をする機会を増やすことで、人材育成を促進

MaOI機構が出展した展示会・イベント一覧

R7.7.25-29	TECH BEAT Shizuoka BLUE ECONOMY EXPO@Suruga Bay
R7.8.19-20	2025大阪・関西万博（大阪府）
R7.9.11	ウェルネスフーズEXPO（静岡市）
R7.10.22	しんきんフェア静岡2025（静岡市）
R7.11.7-8	産業振興フェアinいわた（磐田市）
R7.11.27-29	Techno-Ocean2025（兵庫県）
R7.12.22	SHIZUOKA STARTUP DAY2025（東京都）
R8.1.28-30	OffshoreTech2026（東京都）
R8.2.25-27 （予定）	清水みなとまち今昔めぐり（静岡市）

2025大阪・関西万博 「駿河湾DAY～駿河湾の中をのぞいてみよう～」

(株)テレビ静岡合同

R7年8月19日（火）—20日（水）



映像展示

「駿河湾の魅力を守り、未来へつなぐ」

- ✓ 駿河湾の魅力を守り、未来へつないでいくために活動している人たちの想いや活動の様子会場で上映

研究発表

「駿河湾から未来へ！駿河湾探究キッズ&ユース」

- ✓ 手作りカメラで駿河湾の深海2030mを撮影&調査してきた沼津高専の学生と静岡県内の小中高校生「駿河湾探求キッズ&ユース」のメンバーによる研究発表を開催
- ✓ 大規模イベントでの県内学生の発表の場を創出し、人材の育成を促進

R7年度進捗状況 まとめ

成果指標の状況

指標名	計画(上段)			
	実績 (下段・R8 : 1月末時点)			
	R7	R8	R9	R10
MaOIフォーラム会員数	213	233	253	273
	216			
MaOI海洋微生物ライブラリー 利用件数 (累計)	7	14	21	28
	5			
プロジェクトにおける 共同研究等件数 (累計)	12	24	36	48
	13			
プロジェクト事業化件数 (累計)	6	12	18	24
	2			
海洋スタートアップ創出・誘致数 (累計)	3	7	12	18
	3			

※各年度の計画値は、第2次戦略計画策定時の想定値

MaOIプロジェクト 事業実績 (時系列表)

	時 期	内 容
令和7年度	5月	○ マリンバイオテクノロジー学会
	6月	○ 「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」キックオフセレモニー ○ MaOIプロジェクト戦略推進委員会 ○ 第3回 国連海洋会議 出席 ○ MaOI-FS(フィージビリティスタディ) 採択
	7月	○ 第24回MaOIセミナー (テーマ: 海の次世代モビリティの更なる社会実装に向けた国土交通省の取組) ○ 第2回BLUE ECONOMY EXPO@Suruga Bay開催 (4日間) ○ 海岸清掃&地引き網体験/「静岡県美しく豊かな海保全基金」へ寄附金寄贈 (マックスバリュ東海(株)) (三保内浜海岸) ○ 「静岡県美しく豊かな海保全基金」へ寄附金寄贈 (野村アセットマネジメント(株)) ○ 海洋技術開発促進事業 採択 ○ シーズ創出研究 採択 ○ 国際マリンバイオテクノロジー学会
	8月	○ MaOIセミナーin大阪・関西万博 (テーマ: 駿河湾DAY~駿河湾の中をのぞいてみよう~, 合同: テレビ静岡) ○ 清水みなと祭りに併せて「なぜ?なに?しずおかの海の生き物観察会」開催 ○ 日本進化学会
	9月	○ ウェルネスフーズEXPO (静岡市) 出展 ○ マリンオープンイノベーション事業化促進事業 採択 ○ はまなこ SHOW 2025にて「海の森づくり体験教室/チリメンモンスター観察会」開催 ○ 三保内浜クリーンアップ活動を焼津中央高校ギネス世界記録再挑戦と併せて開催 (三保内浜海岸) ○ 日本生物工学会大会、日本陸水学会
	10月	○ しんきんフェア静岡2025 (静岡市) 出展 ○ タイ生物工学会
	11月	○ 第25回MaOIセミナー (テーマ: 海洋プラスチックセミナー) ○ 海外クラスターForum Oceano(ポルトガル) と覚書締結 ○ NEDO Challenge for BLUE ECONOMY Pre-Event- (清水港エリア) 後援 ○ 産業振興フェアいわた (磐田市)、Techno-Ocean2025 (兵庫県、合同: 静岡市) 出展 ○ 第60回植物化学調節学会
	12月	○ 第26回MaOIセミナー 令和7年度MaOIプロジェクト成果発表会 ○ SHIZUOKA STARTUP DAY2025 (東京都) 出展 ○ ブルーテッククラスターアライアンス ピッチイベント 参加 ○ 親子参加型ワークショップ「うみごめ(みー)@しずおかの海」(静岡市) 開催
	1月	○ OffshoreTech2026 (東京都、共同: 静岡市、静岡商工会議所) 出展
	2月	○ 第27回MaOIセミナー (テーマ: 魚肉たんぱく研究の最前線と最新の魚のすり身について) ○ しずおかの海交流会2026にてインスタグラム「静岡の海」フォトコンテスト表彰式 ○ 清水みなとまち今昔めぐり (静岡市) 出展
	3月	○ MaOIフォーラム交流会 (テーマ: 大日工業株式会社、NACOL株式会社視察会 (仮)) ○ ブルーエコノミー研究会

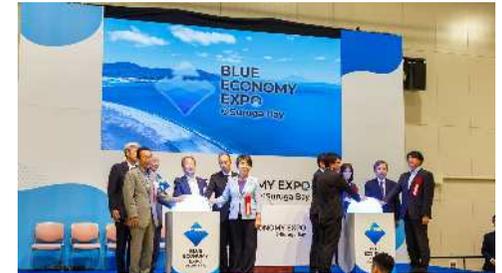
令和8年度 取組方針

令和8年度の主な取組

駿河湾をはじめとする静岡の海をフィールドに、海洋産業の拠点形成に向けた取組を加速

ブルーエコノミーの拠点化の着実な推進

- ✓ 国内外の専門家や国内各界の海洋関係者等が一堂に会する**BLUE ECONOMY EXPO「海の未来会議」**での議論の進化
- ✓ 国際会議への参加やB T C Aネットワークなどを活かした**国際的プレゼンスの更なる向上**
- ✓ M a O I 機構の体制強化（国際担当C Dの配置）



令和8年10月22日-23日（予定）

駿河湾を中心とした海洋実証フィールドの充実

- ✓ **駿河湾・海洋DX先端拠点化計画**と連携し、静岡市や経済界などとともに、実証フィールドの**利便性向上**や**実証事業の誘致**等を推進
- ✓ 水中ドローン関連企業等の**実証事業者**と**県内ものづくり企業**との**ビジネスマッチング**等を通じて、海洋産業の裾野を拡大
- ✓ M a O I 機構の体制強化（工学担当C Dの配置）



海洋スタートアップの誘致・育成の本格化

- ✓ 海洋分野の課題解決等をテーマに、**首都圏スタートアップの誘致**や**県内企業との共創を促すイベント**を都内で開催（他のP Jと連携）
- ✓ 資金調達支援や実証実験サポート、コミュニティ形成等を通じて、**スタートアップの県内事業展開を支援**



【参考】その他の資料

MaOIセミナーのご案内

第27回 MaOIセミナー

魚肉たんぱく研究の最前線 と 最新のさかなのすり身について

近年注目が高まる「たんぱく質」
なかでも、魚肉は「高たんぱく・低脂質」でその機能性が高く評価されています。
今回は大学において先進的な研究に取り組まれている研究者と、日本を代表する練り製品製造企業の研究開発リーダーを講師としてお招きし、学究とビジネスの両面から、魚肉の価値を高める最前線の取組みを紹介します。

「マリンビタミンによる予防医学」

早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 **矢澤 一良 氏**

「伝統的および最新のすり身活用技術」

株式会社鈴廣蒲鉾本店魚肉たんぱく研究所 所長 **植木 暢彦 氏**

日時 **2月19日 (木) 14時**
(開場13時30分)

会場 **グランシップ静岡**
11階 会議ホール「風」

入場無料 WEB配信もごさいます

参加申込は
こちらから



申込期限：2月16日

講師紹介

やざわ かずなが
矢澤 一良 氏

早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所ヘルスフード科学部門 (部門長)

学術活動・社会活動：

健康・長寿研究談話会〔旧ホスファチジルセリン研究会〕(会長)、アスタキサンチン研究会(世話人)、日本アントシアニン研究会(会長)、クリルオイル研究会(会長)、ヒアルロン酸機能性研究会(会長)、ノビレチン研究会(会長)、パラムロン研究会(会長)、昆布の栄養機能研究会(代表理事)など

主な著書(全著書120冊以上)：

「マリンビタミン健康法」：現代書林(1999)、「ヘルスフード科学講座」：食品化学新聞社(2007)、「アスタキサンチンの科学」：成山堂(2009)、「マリンビタミンで奇跡の若返り」：PHP研究所(2010)、「機能性おやつ」：扶桑社(2012)など



うえき のぶひこ
植木 暢彦 氏

株式会社鈴廣蒲鉾本店 部長 兼 魚肉たんぱく研究所 所長

2000年 宮崎大学 農学部 生物資源利用学科 卒業

2002年 宮崎大学 大学院農学研究科 生物資源利用学専攻 修士課程 修了

2005年 東京大学 大学院農学生命科学研究科 水圏生物科学専攻 博士課程 修了 博士(農学)

2005年 株式会社三菱化学生命科学研究所 情報ペプチド工学研究チーム 特別研究員

2007年 株式会社鈴廣蒲鉾本店 入社 魚肉たんぱく研究所 主任

2013年 同所長

2018年 株式会社鈴廣蒲鉾本店 研究開発部 部長 兼 魚肉たんぱく研究所 所長

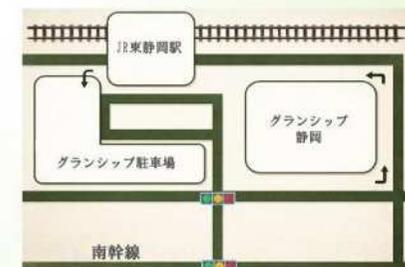


プログラム

13:30 開場
14:00 開演
14:05 講演1 矢澤 一良 氏
15:05 休憩
15:15 講演2 植木 暢彦 氏
16:15 閉会
16:20 意見交換会
17:00 終了

※WEB配信は16:20に終了します

アクセス



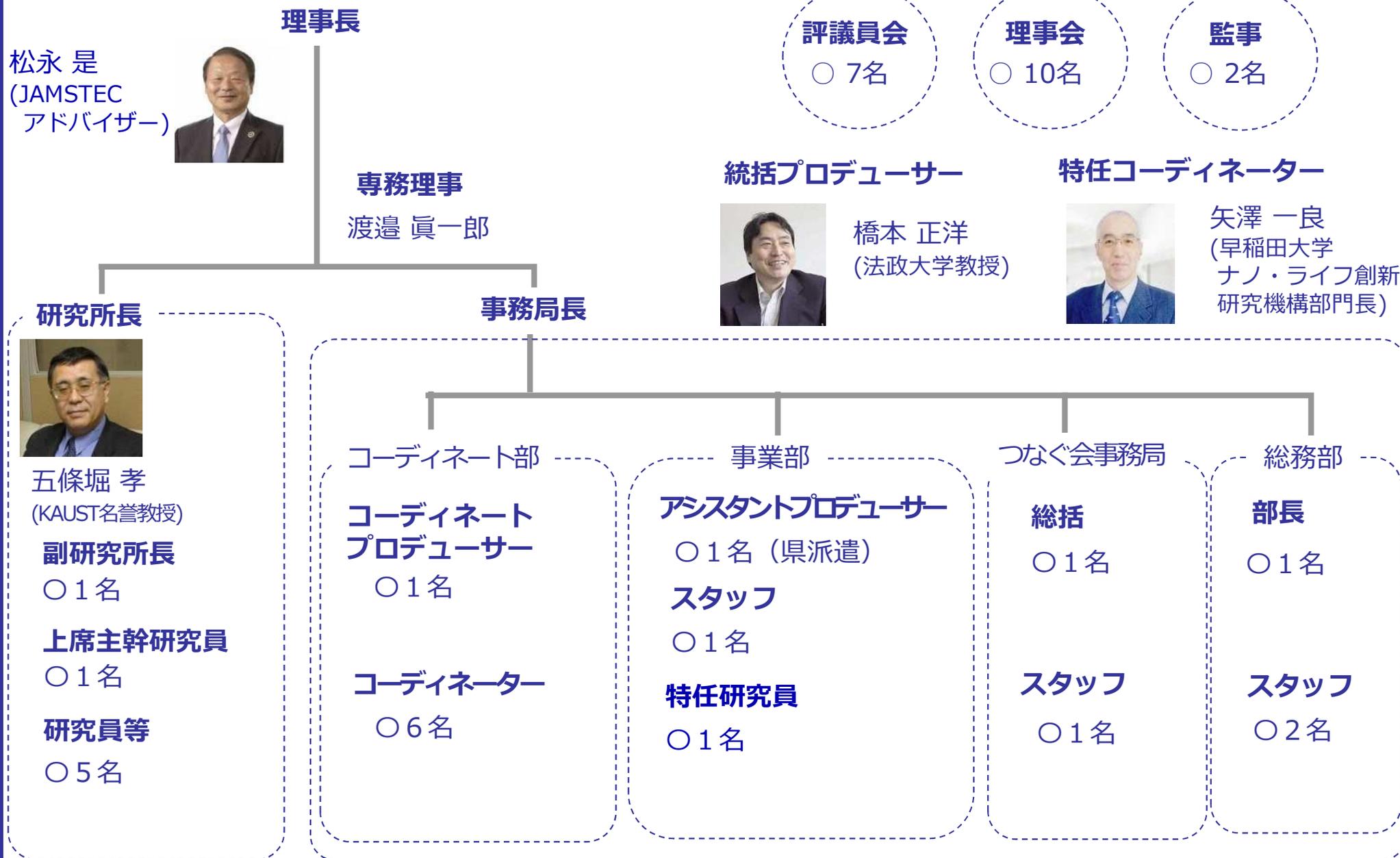
お車で越しの場合は、矢印に沿ってお進みください

主催：一般財団法人マリンオープンイノベーション機構

問合せ：TEL 054-340-1800 Mail info@maoi-i.jp <https://maoi-i.jp/news/5639>

R7年度 MaOI機構の推進体制（1月末時点）

一般財団法人マリンオープンイノベーション機構機構



拠点・プラットフォーム

MaOI-PARC (Marine Open Innovation Practical and Applied Research Center)

プロジェクトの中核拠点施設。大学・研究機関や企業が活用できる共用ラボ、連携研究室、交流スペースなどを整備するとともに、駿河湾等の様々なデータを収集・活用するデータプラットフォーム「BISHOP」を設置したネットワーク型の拠点。

